

環境研究総合推進費
クマ類の個体数推定法の開発に関する研究 平成 22 年度第 1 回 AD 会合

書面コメント

梶 光一

クマ類の生息数推定は、相対的に個体数が少ないにも関わらず、農林業被害や人身被害の防止のための手法として有害捕獲を含めた捕獲管理が必要なため、特別な关心がもたれてきた。最近まで精度の高い個体数推定法は確立されていなかったが、DNA 分析技術の向上と効率化により、DNA 標識・再捕獲法が多くの自治体で用いられるようになった。本プロジェクトは、このような背景から自治体が行う、クマの個体数調査に対する「標準マニュアル」の提示であるので、時期を得たものといえる。プロジェクトの初年度の課題として、標準トラップの構造・誘因エサの提示、トラップ密度と総面積、DNA 分析のレビュー、代替法・補完方法の検討、個体群動態モデルに関する研究の一環として、統計解析の検討が行われた。これらは、次年度以降の実際の試行の準備としていずれの不可欠なものであり、課題がよく整理されている点が評価できる。また、今回示されたプロジェクトの方向性を維持していただきたいと考える。今後検討していただきたい課題としては、本報告書にも記述されていたが、クマ類の生息数に高い精度と個体数トレンドのいずれを求めるのか、である。費用対効果のほかに、地方自治体が実際に行っている管理がどの程度の個体数精度を求めるのかを明らかにしておく必要がある。どのような場合に、どの程度の間隔で、ヘアトラップ調査が必要なのかを明らかにし、実現可能な実用性の高いマニュアルとなることを望む。

(2010 年 6 月)